

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	范 文玲 【比較社会文化学専攻 平成23年度生】	<p>本論文は中国近代文学を代表する作家の一人郁達夫（1896～1945）について、大正期日本への留学経験を通じて吸収し、憧憬の対象とした西洋近代の思想文化、文学が彼の小説にどのように具体的に反映されているかを、女性表象を中心に明らかにし、郁達夫の文学において西洋近代が持つ意味を再考しようとするものである。類似したテーマの先行研究の多くが限られた作品に対する考察を通じた印象批評的なものに終始する中で、全小説の用例調査に基づいた分析と考察を行っている点にまず本研究の特色がある。さらに、本論文修正後により明確になった特色としては、郁達夫が西洋近代を受容する場となった近代日本における西洋近代受容のあり方との比較という視点を有する点も本研究にのみ見られるものではないにせよ、特色として挙げることができる。第一章では代表作「沈淪」の結末において果たして本当に主人公は自殺したのかという問いかけから発して、西洋思想・西洋文学からの影響および西洋崇拝について再検討する。第二章では、郁の作品に多用される外国語（特に欧米言語）の表記に着目し、近代的文学言語形成との関わりにおいて郁の文体を論じる。第三章では、作品中の女性の身体的・外見的特徴に着目し、郁が美の規範を西洋近代に置いていたことを論じる。第四章では、郁達夫も属していた創造社の他の作家の作品における女性の外見描写との比較を通じて、郁の作品の女性表象の特徴を明らかにする。第五章では、作品における母親像に着目し、母親のイメージが前期から後期にかけて変化することを指摘した上で、母親像に見える西洋文学からの影響を指摘する。</p> <p>審査委員会は2015年12月16日と16年2月16日に開かれた。第一回審査において、研究の独創性と意義については高い評価を受けたが、本論文のキーワードである「感傷性」の規定が甘い、郁の描く病弱な女性美や残酷な母親像の意味のとらえ方が単純すぎる、首尾一貫していない記述が見られる、等の修正要求が出され、結核と近代、自殺と日本近代などへの参照を充実させるなどの改稿を行った結果、委員全員が適切に修正が行われたと判断した。最終審査に先立って行われた公開発表では、論文の内容をわかりやすく、また手際よく発表し、聴衆からの活発な質問にも落ち着いて適切に対応した。最終試験にも合格し、審査委員会として、本論文は学位論文にふさわしく、合格と判断する。</p> <p>学位名称は、博士（人文科学）、Ph. D. in Chinese Literature とする。</p>
論文題目	郁達夫小説に見られる西洋への憧憬——女性表象を中心に——	
審査委員	(主査) 教授 宮尾 正樹	
	教授 和田 英信	
	教授 岸本 美緒	
	教授 伊藤 美重子	
	准教授 伊藤 さとみ	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・㊦）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">㊦. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	